

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ホームの理念である「笑顔 優しさ 思いやり」が、自然体でできる園になるよう、利用者、管理者、職員と共に高めている。</p> <p>○</p>	<p>地域の中で、暮らせるように取り組んでいる。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ホームの理念を念頭において、利用者に関わりが持てるよう、日々取り組んでいる。</p> <p>○</p>	<p>玄関にホームの理念を掲げている。ホームの理念を勉強会の時に確認している。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族や訪問いただいた方に、分かりやすく玄関に理念を掲げている。</p> <p>○</p>	<p>家族、訪問いただいた方に、分かりやすく玄関に理念を掲げている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>山の斜面地に建っており、近所の人との付き合いができていくが、散歩に出かける時などには声をかけ、挨拶をしている。</p> <p>○</p>	<p>子供が犬を連れて、訪問に来てくれている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の方との交流で行事を予定していたが、はしかの流行でできなかった。老人大学への参加も時々している。</p> <p>○</p>	<p>老人大学への参加していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に呼びかけているが、実現はできていない。	○	地域の高齢者に役立つ手助けができればと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、それぞれの評価の意義を理解し、評価を活かして改善に取り組んでいる。	○	地域と関わりが持てるように取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進協議会での報告や、話し合いでの意見をサービスの向上に活かしている。	○	運営推進協議会での話し合いを職員間で共有し、実際の現場での改善等に取り組んでいる。今後もサービスの向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外でも、園の方にいろいろと来ていただいて、利用者の方と交流されたり、話をしてサービスの向上に取り組んでいる。	○	電話等でサービスの向上に努めて、連絡等を密にしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今後、重要になってくると思うが、未だ取り組みはできていない。	○	今のところ必要性はないが、今後学習していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の資料を職員に配布して、勉強している。	○	今後は、職員の勉強会にも取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書を家族の方と一緒に目を通し、確認を行っている。疑問点についても随時、分かりやすく答えている。	○	契約を結んだり、解約をする際には、利用者や家族などに十分説明を行い、理解、納得を得られるよう努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見などは、直接職員が聞いたり、管理者自らが常に利用者に関わり、意見、不満などを聞き、対応できるようにしている。また、利用者の知人、家族などにも、電話で話ができるように支援している。	○	管理者、職員が、直接、利用者の意見、不満が聞けるように対応している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事などに家族に参加いただいたり、面会時に、その都度、利用者の生活の様子や健康状態を知らせている。ホーム便りを定期的に発行して、生活の様子を知らせている。	○	ホーム便り「ほんのりさぬき富士」を定期的に発行し、送付している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会などで、利用者、家族の方が意見を出し合い、市の職員、管理者、職員が問題について検討し、運営に反映できるようにしている。	○	運営推進協議会を開催していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に、職員の意見に耳を傾け(合理的にできるところ等)、職員が利用者に関わる時間ができるように対応している。	○	業務改善をし、利用者に関わる時間を作った。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて、職員の勤務の調整を行っている。	○	個別ケアを実施するために、勤務時間の調整や、季節よりの時間帯の変更を行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係を継続できるように、努力している。	○	職員の異動は最小限にしている。また、グループホームにむいている職員の配置をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設での職員研修や施設外での研修を、できるだけ積極的に参加できるようにしている。	○	毎月の職員研修、施設外での研修、講演等へ参加していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の職員の研修等の受け入れを行ったり、近隣のホームへの実習で交流する機会を持ち、他の施設の良い所、自施設の改善すべき点などを話し合ったりしている。	○	近隣のグループホームとのネットワーク作りに取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	バレー部があり、運動の好きな職員が参加している。試合に出たり、職員の希望を取り入れた旅行を計画し、ストレス軽減に取り組んでいる。	○	旅行や誰でも参加できるバレーボール部がある。老人福祉救護事業振興会の運動会にも参加している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	特に、女性の多い職場なので、家庭との両立を一番に考え、穏やかな家庭生活を長く営めるよう望んでいる。	○	時間内に仕事が終わるよう、常に考え取り組んでいる。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の方の入所時に、本人、家族より細かい聞き取り調査をしている。また、日常的に本人に話を聞き、その都度対応している。	○	毎日の関わりの中から、利用者の不安、困っていることを見つけ出し、穏やかに生活ができるように支援していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族参加の行事や面会時などには、利用者の方の状態報告をし、家族の方と話をする機会を持ち、気軽に相談ができるように努力している。	○	花見、夏祭り、敬老会など、ホーム内での行事参加の案内状を送付し、話ができる機会を設けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	義歯の不具合などで、訪問歯科と連絡調整をして、ホームでの治療をお願いしている。	○	今後も、訪問歯科への連絡調整を行っていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイ利用時に何度かホームへ訪問していただいたり、家族の協力を得て、外出の機会を多く作って、徐々に馴染めるように工夫をしている。	○	入所されても、ホームに馴染めるよう、利用者の家族、馴染みの方との話し合いで、面会に来ていただいたり、外出、外泊の支援をしている。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	上手く馴染みの関係ができるように、職員は、利用者と寄り添い、生活を共にしている。また、年配である利用者の方からの生活の知恵等をいろいろと教わっている。	○	毎月、お楽しみ会や誕生会などを行っている。利用者と職員が会話をしながら楽しく料理をし、皆で一緒にお祝いする中で、親交を深めている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事がある時や面会時には、気軽にホールで利用者の方と話をしたり、日光浴をしたりして過ごせるように努力している。	○	花見、夏祭り、敬老会などへ参加いただき、一緒に楽しんでいる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠になりがちな身内の方には、ホーム便りや個人の日常生活が分かるような写真を送り、理解と協力がいただけるよう支援している。	○	不仲だった家族も、ホームで過ごすうちに、お互い笑顔が見られている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な方が訪問しやすい雰囲気作りをしたり、利用者の方から電話をかけて、話ができるように支援している。	○	遠く離れた身内の方から宅配便などが届いた時には、お礼の電話をかけたり、はがきを出す等の支援をしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士が上手く関わりあって生活ができるように支援している。	○	日常の軽体操、ボール遊び、漢字クイズなど、ホールで輪になって行い、足りない部分を補い合う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談、話があれば、その都度対応している。	○	契約が終了した家族と連絡をとって、終了後の相談や日常的な会話をしている。また、施設にも遊びにきてくれる。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状態を把握して、本人の希望を取り入れながら、支援するように努めている。意思表示のできない利用者の方は、職員で話し合い、よりよい支援ができるようにしている。	○	本人の希望を多く取り入れ、毎日の散歩、買い物などを多くできるように支援している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方や本人に、入所の時点で細かい聞き取り調査を行っている。また、関係者の方たちからの情報を、できるだけ多く取り入れ、把握できるように努めている。	○	面会時などに、家族とのコミュニケーションに努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりと深く関わることによって、心身の状態など、総合的に把握している。	○	毎日の利用者の申し送りなどで、職員全員が把握できるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望も聴き、医師、看護師の意見などを取り入れながら、よりよいサービスができるように計画の作成をしている。	○	連絡ノートを活用し、利用者の状態を報告し、医師の助言などを反映して、計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、見直しを行なうと共に、心身の状態の変化に沿って、随時、関係者と話し合い、計画の変更を行っている。	○	随時、行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者の心身の状態が分かるように、記録をしている。また、記録が介護計画に活かせるように、意見交換を行っている。	○	24時間のサービスの記録を、個別に記入している。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の特殊浴槽の使用している。また、ホームを交流の場として使用している。	○	併設施設の行事に共に参加したり、一緒に買い物に参加して支援している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアで生け花教室をしていただき、生活に潤いを感じていただいたり、本人の希望により、老人大学へ参加している。また、文化祭などにも出かけている。	○	ボランティアによる、生け花教室を開催している。老人大学への参加したり、文化祭などに出かける。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用の支援はできていない。	○	地域のケアマネジャーやサービス事業者と関わりを持ち、サービス利用のための支援をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの関わりが少ない。	○	今後、地域包括支援センターと協働し、利用者のサービスに努めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望する医師、医院での適切な医療が受けられることができるよう、連絡調整している。	○	訪問歯科を利用したり、眼科・皮膚科等の専門病院への受診や付き添いを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師と相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるように支援している。	○	常に、医師との連携を取り、利用者の状態報告をし、状態に合わせて、受診、治療などが受けられるよう支援している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設なので、常に看護職員が利用者の状態を把握しており、日常の健康管理、医療活用の支援をしている。	○	糖尿病の利用者の方に対して、毎日のインシュリンの注射を施行している。毎日の利用者の健康状態を把握している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合は、病院関係者から状態報告を受けると共に、病院に行き、状態の把握に努めている。	○	入院時の病院への訪問、情報交換をしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、本人、家族、医師との話し合いをしている。	○	終末期にホームで看取りをするか、病院への搬送をするか等、本人、家族の希望に添うように医師、看護師、職員と話し合いを行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の利用者の支援については、医師、看護師との情報を交換しながら、今後の対応について話をしている。	○	終末期の利用者の支援については、医師、看護師との情報を交換しながら、今後の対応について話をしている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、関係者で十分な話し合いや情報交換により、利用者の住み替えによるダメージが少なくなるように努力している。	○	グループホームから他の施設へ移り住む際には、関係者と連携を取り、十分な情報交換をすることで、本人のケアが十分できるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりをよく知り、その人にあった言葉かけをするようにしている。記録などは、所定のところに保管している。	○ 利用者一人ひとりの歴史や思いを知り、接するように心がけている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が選択できるような言葉かけを心がけている。一人ひとりの状態を把握して、本人ができることの支援をしている。	○ 利用者が選択できるような言葉かけを心がけている。一人ひとりの状態を把握して、本人ができることを支援している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人のその日の体調や希望を取り入れながら、支援している。	○ 利用者の希望に合わせて、入浴は午前、午後のどちらでも入浴できるようにしている。その人に合わせた個別ケアに取り組んでいる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は、職員と一緒に、自分の着た衣服を選んでいる。理容・美容は、本人の希望を聞いて支援している。	○ なるべく、本人に衣類は選んで着てもらっている。意思表示のできにくい方には、その人に合うような衣類を選び、毎日整容には気をつけている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかず作りなどは、一人ひとりのできることを担当してもらい、楽しく調理、準備等をしてもらっている。	○ 台拭き、米研ぎ、後片づけを一緒に手伝ってもらっている。おかずやお菓子作りも行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこ等をたしなむ方はいないが、飲み物では、甘酒が好きな人、栄養ドリンクが欲しい人など、その方の嗜好に応じて、購入している。	○ 年齢と共に嗜好の変化もあることを考慮して、現状の好み理解できるように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄の状態を把握して、日中はトイレで排泄している。夜間もできるだけトイレ誘導をしている。	○	排泄チェック表を作成して、一人ひとりの排泄のリズムを知り、日中はトイレでの排泄を支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて、午前、午後のどちらでも入浴できるようにしている。	○	入浴時の介助にも注意し、利用者、個人のプライバシーに配慮しながら行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、生活習慣に合わせて、休息、睡眠ができるように支援している。	○	不眠時の対応は、一人ひとりに合わせて職員間で話し合っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ができることへの支援をしている。料理好きな方には調理を担当していただいたり、掃除の好きな方に洗いや洗濯物干し等をしてもらっている。その日の体調を見ながら行っている。	○	昔の知恵などを会話の中から探し、聞くように努め、楽しみや役割をさらに見つけ出している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額ではあるが、自分の財布を持ってもらっている方がいる。ショッピング等で支払いをしてもらったりしている。お金の管理ができる方はいない。	○	ショッピングでは、お金の支払いができるように、職員と一緒にしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望する方は少ないが、外出したい方へは職員が付き添い、日常的な散歩、ショッピングを支援している。	○	外出を希望する利用者の方には、職員の用事で出かける時も一緒に歩いてもらい、外出の機会が多くできるように支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族、友人への電話ができるように、職員と一緒にかけている。また、年賀状、暑中見舞い状などを一緒に作り、家族の方に送付している。	○	お城祭り、文化祭への参加をしている。また、希望するところへの外出支援を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人への電話ができるように、職員と一緒にかけている。また、年賀状、暑中見舞い状などを一緒に作り、家族の方に送付している。	○	年賀状、暑中見舞い状を送付している。家族への電話を支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	開放的にして、ホームも明るい雰囲気が出るように工夫している。	○	職員は、明るい声かけと笑顔で対応している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前、身体拘束を行っていた利用者の方がいたが、現在では見守り強化にて、身体拘束廃止している。今後も、身体拘束をしないケアに向けて、委員会などで話し合っている。	○	定期的な身体拘束廃止に向けての会議の開催していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は玄関を開放し、チャイムなどで対応していたが、対応困難な利用者があり、鍵をかけていることもある。	○	鍵をかけずに、開放的にしていけるよう努力したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者にも目を配り、安全に過ごすことができるように努力している。	○	日中はもちろん、夜勤の時もホールで記録する等、全体が把握できる場所で業務を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具や包丁、はさみ等の危険なものは、職員と一緒に十分注意して使い、保管場所にきちんと片付けるようにしている。	○	調理、裁縫を行うときは付き添い、見守りながら、道具を使っている。終了時には道具の確認をする。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの身体の状態を把握して、未然に事故が防げるようにしている。	○	定期的に事故防止委員会を開催して、いろいろな事例などについて取り組んでいる。ヒヤリハットを活用している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員が定期的に急変時、事故発生時への対応の研修を行っている。	○	医師、看護師などに、対応策の指示を仰いでいる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備えて、定期的に避難訓練を行っている。	○	災害時には地域の人の協力者があり、支援をお願いし、近隣の方々を加えた消防の組織の連絡網を作っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時、電話での連絡時に、現在の状態を報告している。何らかの危険の恐れがあるときには、対応策などを話している。	○	家族の面会時に話をしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に利用者の状態が把握できるように、職員間の申し送りを確実にしている。異変があるときには、速やかに対応できるようにしている。	○	記録の充実を図り、申し送りを一人ひとり細かく行い、職員が早く気づけるように取り組んでいる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用量、効能などを、職員が把握できるようにファイルに綴っている。また、体調などは日常的に観察し、状態の変化に気をつけている。	○	服薬管理表を作り、薬の効能、副作用について知ることができるようにファイルしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな方には、寒天、ゼリー、オリゴ糖などを摂取していただいたり、日常的に体操などで体を動かすように支援している。	○	毎日、体操を行っている。寒天、ゼリー、オリゴ糖などを摂取してもらって、便秘の改善をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔への声かけと、できない方には口腔介助をしている。また、夜間は義歯の消毒をして清潔を保っている。	○	毎食後の利用者の歯磨き、うがいへの声かけを行っている。できない方には義歯洗浄の介助をし、常に清潔を保てるように支援している。夜間は義歯の消毒を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が食事の栄養を管理している。また、水分が取りにくい方には、介助したり、ゼリーなどで水分が取れるように支援している。	○	食事、水分量のチェックをしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する取り決めをしている。感染予防委員会で、対応や対策を検討している。	○	定期的に感染予防委員会を開催している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗い乾燥機などを使用している。台所は常に清潔を心がけ、布巾などは毎日消毒を行っている。生ごみは所定の場所に捨てている。毎日、新鮮な食材での調理と賞味期限を守って、食材を使用している。	○	台所、道具の衛生管理、食品の消費期限を守り、保管場所の清潔を心がけている。残り物などは、利用者が居室に持ち帰らないよう注意を払っている。家族の食品の持ち込みは、職員が残りを管理している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	傾斜地に建っているため、危険防止のために周りはフェンスで囲まれているが、玄関前や庭には花を植え、花壇にはぶどうを植え、収穫できる楽しみがある。	○	花壇を作り、憩いの場を広げた。季節ごとの花を植え、楽しんでいる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは利用者が集まれるよう、落ち着いた感じになっている。夏の日差しがきついで、すだれなどで遮光するように工夫している。ホールの掲示板には、季節が感じられるようにしている。	○	夏はすだれで遮光し、風鈴、朝顔などで季節感を出している。掲示板は、季節が感じられるような掲示になっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外では、サンルームで一人で過ごすことができる。また、気のあった方が自由におしゃべり等をして、過ごしている。	○	椅子以外にもソファーを利用し、くつろげる空間作りに努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家族の方には馴染みの物を持ってきてもらった、家族の写真などを飾ったりしている。馴染みのタンスや鏡台などを持ってきて、落ち着いた空間作りをしている。	○	家族の写真などを持ってきてもらっている。馴染みの家具などをお願いしているが、持ってこられない方のほうが多い。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には十分配慮して、居室の窓を開けるなどして、温度にも注意している。	○	利用者の起床時間に合わせて窓を開け、換気している。また、利用者の希望にあわせて、自室は個別に温度調節をしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには手すりをつけ、安全に歩行できるよう配慮されている。トイレ、浴槽などにも必要な手すり、バーなどをつけ、安全に配慮している。バリアフリーになっている。	○	入浴時に脱衣所で立ち上がり、動作がしやすいように工夫したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所が認識できるように、居室を分かりやすくしたり、大きな字で表示したり、入浴時には暖簾を吊って、分かりやすくしている。	○	大きな読みやすい文字で表示している。目に付きやすいように工夫をしたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りは散歩ができるようになっているが、坂道が多い。ベランダは、いつでも歩行ができるように開放している。	○	ベランダには、利用者の好みに合わせて草花を置いて、自分で育てることができるように工夫したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方、個人に合わせた個別ケアを行っている。食事は管理栄養士が栄養面に配慮して、利用者の好みに合うように献立作りに取り組んでいる。四季を感じていただくために、花壇整備に力をいれており、時節の花や野菜等を作って楽しめるようにしている。